

糸魚川市公共施設等総合管理指針

個別計画

分類：図書館

第1 図書館

(生涯学習課)

平成31年2月 策定

令和5年3月 改訂

令和6年3月 改訂

第1 図書館

1 施設一覧

(1) 施設総括表（令和5年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
図書館	3	0	0	1	0	2	0

※ 併設施設を除く。

(2) 施設の詳細（令和5年4月1日現在）

施設名称	代表所在地	建築年(経過年数)	延床面積 m ²	構造	階層
市民図書館	一の宮 1-2-3	1981 S56 (42)	1,566.01	RC造	3
能生図書館 (能生生涯学習センター内)	能生 1941-2	1975 S50 (48) 2011 H23 (12) 改修	582.50	RC造	1
青海図書館 (青海総合文化会館内)	青海 4657-3	1996 H8 (27)	523.00	RC造	1
計			2,671.51		

※ RC造 鉄筋コンクリート造

2 現状と課題

(1) これまでの施設整備規模、配置状況

① 設置経過

市民図書館は、図書、記録その他必要な資料の収集、整理、保存をして一般の利用に供し、利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的に昭和56年7月に開館した。

平成28年度には屋上漏水工事を、平成29年度に空調設備入替工事を実施した。建築後40年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいる。

能生図書館は、平成7年4月に能生児童館2階に図書館として開館し、平成23年4月から現在の能生生涯学習センター1階に移転した。令和3年に空調設備の入替工事を実施した。

青海図書館は、平成8年4月に青海総合文化会館内に開館して以来、大規模な修繕等は行っていない。

② 整備規模

それぞれ市町合併前からの設置経過があり、旧市町に1館として整備してきた。

規模は、結果的に合併時で概ね人口10,000人当たり500m²前後と共通している。

③ 配置状況

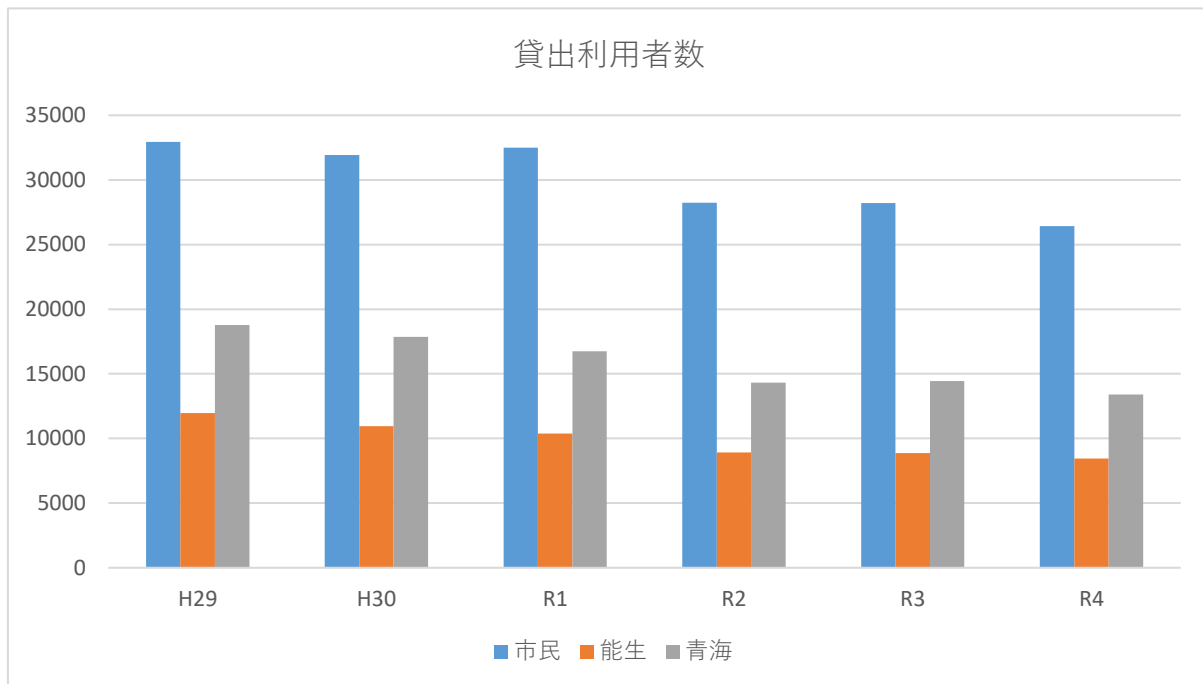
前述のとおり、旧市町に1館として整備したことから、能生、糸魚川、青海それぞれの地域に設置されている。

(2) 利用状況

図書館の利用者数は、3館とも微減している。微減は、人口減少に伴う要因と、デジタル化が進んだことにより、電子書籍の普及で図書館に行かなくても読書ができる環境が整いつつあることで、図書館離れがさらに進んだことも要因と考えられる。

また、市民図書館は、能生、青海図書館と異なり単館であり、建物の老朽化と閲覧コーナーの狭さなども利用者が伸びない要因と考える。

単位：人



単位：人

施設	区分/年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4
市民図書館	人口	26867	26393	25944	25583	25114	24654
	貸出利用者数	32932	31921	32494	28239	28214	26426
	人口一人当たり貸出利用回数	1.23	1.21	1.25	1.10	1.12	1.07
能生図書館	人口	8375	8200	8016	7797	7612	7438
	貸出利用者数	11966	10952	10376	8931	8880	8447
	人口一人当たり貸出利用回数	1.43	1.34	1.29	1.15	1.17	1.14
青海図書館	人口	8170	7997	7823	7630	7445	7285
	貸出利用者数	18768	17855	16741	14322	14449	13397
	人口一人当たり貸出利用回数	2.30	2.23	2.14	1.88	1.94	1.84

(3) 課題

昭和 56 年に開館した市民図書館は建物の老朽化が進んでおり、エレベーターは令和 5 年 12 月をもって部品の供給が終了するため、保守点検が継続できなくなる。

また、近年、読書だけでなく居場所としてのニーズがあり、内装の改修や施設整備などを含めて施設のあり方について検討を進めている。

能生図書館は能生生涯学習センターに、青海図書館は青海総合文化会館に併設していることから、生涯学習講座やホールの来館者が気軽に立ち寄れる利点を生かした運営が特徴となっているが、その一方で 3 館共通事項として、閲覧スペース、蔵書冊数の増加に対応する書庫の確保などが課題となってきた。

施設運営については、令和 4 年 10 月から窓口業務を民間業者に委託した。図書館サービスの向上が期待されるが、効果については、別に定めた評価票の項目に基づき、年度ごとに評価を行い、受託者にフィードバックする中で検証することとしている。

また、遠隔地の住民の読書機会の提供を図るなどソフト事業を強化するためには、人員配置を含めた検討が必要である。

3 分析と評価

(1) 総合管理指針による分析と評価

施設の設置目的に関しては、3 館とも実情と合致しているが、利用者は減少している。適切な維持管理の点では、老朽化対策と 3 館体制の維持が課題となっている。

① 利用者数について

令和 4 年度の利用者数は、市民図書館が 26,426 人、能生図書館が 8,447 人、青海図書館が 13,397 人である。

3 館とも、前年度と比べて減少している。

② 運営について

図書館の運営について、平成 29 年度から行政改革推進項目として民間委託の可能性とサービスの向上について調査検討していたが、令和 4 年 10 月から民間委託とした。

民間のノウハウを活かしたサービスの提供や、クリスマス会など季節に合わせたミニイベントの開催等、新たな利用者の拡大のための取り組みを行い、利用促進を図っている。

(2) まちづくりとの関係

市民サークルや読み聞かせボランティア等の定期利用があり、間接的な関係がある。

また、館内での閲覧のほか、学習室の利用や土曜自習室の実施など、市民の居場所としての機能を有している。

(3) 利用者の動向

読書スタイルが、本からスマートフォンやタブレットなどの IT 機器に変わる中で、図書館に求められるニーズは、単に読書をしたり勉強したりする場所から、居心地のよい場所へと変わってきている。学習室は、学校の試験前や大学・高校入学試験前になると中高生の利用が増える傾向にある。

人口減少に伴い、利用者数も減少すると思われるが、微減で推移するものと推測する。

平成 29 年からは子どもの家庭学習支援を目的に土曜自習室を開設したが、現在は子どもの居場所としての役割も期待されている。

単位：人

学習室等施設利用延人数							
施設	区分／年度	H29	H30	R 元	R 2	R 3	R 4
市民図書館	学習室	5,201	5,097	4,854	2,584	3,097	2,369
	インターネット	801	502	349	115	158	161
	おはなし会	198	172	143	59	106	80
	計	6,200	5,771	5,346	2,758	3,361	2,610
能生図書館	学習室	1,073	940	990	556	476	481
	インターネット	611	495	410	242	201	194
	おはなし会	407	269	323	168	198	312
	計	2,091	1,704	1,723	966	875	987
青海図書館	学習室	2,100	1,921	1,934	1,654	2,003	1,726
	インターネット	244	216	161	70	98	90
	おはなし会	728	585	437	176	89	96
	計	3,072	2,722	2,532	1,900	2,190	1,912
合計		11,363	10,197	9,601	5,624	6,426	5,509

※青海のおはなし会は、令和元年から月 1 回となったため減少

※土曜自習室は平成 29 年にトライアル事業として実施

※令和元年から 3 年は新型コロナウイルス感染症予防のため、自粛した期間あり

4 整備方針

(1) 適正規模、適正配置の基本的考え方

市民図書館は、読書以外の多用途利用を進めるだけの広さがなく、建物自体が老朽化しているが、耐震補強が完了し、鉄筋コンクリート造であることから、当面は現在の建物を使用しつつ、現在は建て替えも視野に将来の図書館のあり方を検討している。

建て替えの際は、効果的な集客の観点から、複合施設化も選択肢のひとつとして検討する。能生図書館・青海図書館は建物が比較的新しく、当面は各地域に 1 か所、継続して配置する。

(2) 整備に関する基本的考え方

市民図書館は、図書館機能だけではなく、子育て世代、児童・学生世代、ビジネス世代、高齢者世代などのあらゆる世代が気軽に立ち寄れる場所としての複合的な機能を有する施設として整備する。

能生図書館、青海図書館については、現在の施設を計画的に修繕することで長寿命化を図る。

(3) 運営に関する方針

図書館は、市民の生涯学習の推進に不可欠な施設であるため、適切な選書、また読書活動に関する事業の推進は行政の責務である。

一方、子どもから高齢者まで、読書や勉強だけでなく、憩いの場となるような施設であることも望まれている。令和4年10月からノウハウのある民間活力を導入し、運営を始めたことで、居場所としての施設づくりも可能になるのではないかと考える。

5 対策の優先順位の考え方

現在、施設も含めた図書館のあり方についての検討を進めているが、建物の耐用年数や施設の利用状況を考慮しながら、緊急性の高いものから修繕等を行う。

6 個別施設の状態等

施設名	劣化の状況					特記事項等
	屋上 屋根	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	
糸魚川図書館	D	D	D	D	D	

(A 概ね良好 B 部分的に劣化 C 広範囲に劣化 D 広範囲に著しい劣化)

※能生図書館・青海図書館は能生生涯学習センター及び青海総合文化会館との複合施設のため、記載しない。

7 令和元年度から令和10年度までの検討計画

・計画期間は、令和元年度から令和10年度までの10年間とする。

単位：千円

スケジュール				
内容	R1～R5	R6	R7	R8～R10
修繕	R2:自動扉修繕(市民図書館) 352	市民図書館エレベーター改修 12,500	市民図書館2階ロビー漏水修繕 550	
	R3:照明器具修繕(青海図書館) 266			
	R4:照明器具修繕(青海図書館) 756	図書館あり方検討		
	R5:高圧気中開閉器更新工事(市民図書館) 825			

8 その他

本計画は、文部科学省が参照例示している社会教育施設等の個別施設計画である。

第3次糸魚川市総合計画の施策の方向は、以下のとおりである。

図書館サービスの充実

- ・民間の活力やノウハウを活用し、効率的な運営や専門性の向上により、窓口サービスの充実を図ります。
- ・利用者ニーズの把握に努め、図書や視聴覚資料など資料の充実を図ります。
- ・子ども読書活動推進計画に基づき、読書のきっかけとなる場や本に親しむ機会を提供するための環境整備や啓発活動を行います。
- ・社会情勢の変化に対応し、新しい技術を取り入れた図書館サービスの在り方について検討を進めます。